

vol.  
001  
2022/05

# 大 須

大須病院の地域連携情報誌創刊！

大須病院の最新情報を年4回、お届けいたします。  
ぜひご利用ください！



## 診療科紹介 整形外科 Orthopedics

令和3年10月に旧NNT西日本東海病院より医療法人桂名会に事業譲渡され大須病院になりましたが、診療体制には特に変更ございません。

診療対象は運動器疾患全般となりますが、スポーツや事故による外傷からご高齢の方の変性疾患(変形性関節症・骨粗しょう症など)まで、多岐にわたる病態が対象となります。主に変形性関節症(膝・股関節)に対しての人工関節置換術や関節鏡を用いた再建術(TFC)損傷・ガングリオン切除・骨折整復。前十字靭帯再建・半月板縫合や形成術。腱板縫合・脱臼に対する形成術)を中心に行っています。

これだけではなく、日常多くみられるさまざまな外傷にも対応していきます。またスポーツ膝関節外科に関しては、毎週金曜日(東京大学より非常勤医師に来ていただき、診療にあたっていただいております)。  
今後は当院整形外科の常勤・非常勤医で患者さんのニーズに答えられるよう診療に邁進させていただきます。



整形外科  
部長 市瀬 彦聡

### 当院、最先端機材のご紹介 人工膝手術支援ロボット NAVIO



膝関節の辛い痛みに対して行われる人工膝関節の手術は年々進歩し、手術結果もとても安定しています。しかし中には術後に自分の若い頃の膝と少し違う感覚に、または趣味のスポーツを再び始めたいけどさすがにそこまではできない……といった悩みを残される方がいらっしゃるのも事実です。

この人工膝関節手術は膝関節の重要な組織である「前十字靭帯」を切らなければならぬ、という医療機器と手術技術の限界があったことが大きな要因と考えられます。

平成31年から日本でも導入された「ロボット支援技術」は、その「前十字靭帯」を温存するよう今まで取り組めなかった難易度の高い手術をより安全に実施することができ、最新の医療テクノロジーです。  
従来のコンピューター・ナビゲーションを、自動車の技術で

例えるとカーナビのように進む方向や手順を医師に伝えてくれますが、手術は人間である医師が行いますので経験による習熟が必要で、そのロボット支援は自動車技術に例えると、車線をはみ出すとアラームがなったり、前方の車に近づくと自動でブレーキをかけてくれたりする技術と近いものです。

手術は引き続き人間である医師が行うのですが、ロボットがそれを正確にかつ間違いのないように支援してくれる技術なのです。この技術によって私たち医師はより難易度の高い手術にも安心して取り組めるようになり、患者様の持つ個別のニーズにより応えることができるのではと期待しています。

令和2年3月より愛知県で初めて、ロボット支援技術による人工膝関節手術を開始しています。  
常に最新の医療に取り組み、患者様のお役に立てるよう努力して参ります。



代表挨拶

院長 佐藤 泰正



地域の方々に必要として  
いただける病院に

ご挨拶遅れましたが、旧NNT西日本東海病院では大変お世話になり感謝申し上げます。当院は昭和46年3月に当時の電電公社により「東海通信病院」として誕生し、令和3年10月1日に新たに大須病院に生まれ変わりました。

これを機に、病院理念を「大須地域および名古屋の持続的な健康増進に貢献する」に改定いたしました。病院名の由来である「大須」は、当院から半径3km圏を代表する地名であり、地域の方々に深く愛されるかかりつけ病院を目指すという当院の思いを込めています。また「名古屋」は、当院から半径5km圏を代表する名称で、中区地域で一番のリハビリテーション機能をもつ病院になりたいとの決意を表わしています。

そして、高齢化により、今や人口の約2割が高齢者といわれる大須地域、中区全体の人口予測モデルは令和17年に9万3千人であったが現在既に到達し、医療環境整備もまったなしの状況にあります。医療環境の激しい移り変わりに素早く対応し、大病院では対応できない小回りの利く診療機能をいつまでも継続させたいとの決意と、健康診断機能も更に強化し、急性期機能、回復期機能を合わせもつケアミックス病院として、地域とともに発展したいとの思いを込めています。

私たち全スタッフ一丸となって連携してくださる各関係機関、地域の病院、クリニック、介護施設等とより一層の連携を図り、地域の皆様や医療関係者の方々の役に立てる最良の医療が行える病院を目指して参ります。これからもより一層邁進いたしますので、これまでと変わらぬご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。「大須地域および名古屋の持続的な健康増進に貢献する」新生、大須病院をどうぞ、ご活用下さい。

地域連携福祉相談室

地域連携福祉相談室長  
山本 眞由美

広報誌刊行にあたり

地域連携福祉相談室・患者様相談窓口では、紹介患者さん受け入れのための病床管理の支援、退院調整及び各種相談業務を行っています。

- 私たちは、地域の医療・福祉・介護機関との連携の窓口として結び役割を担い、患者さんからの疾病に関する質問や生活上の不安など、さまざまな相談をお伺いしています。また、患者さんおひとりおひとりの笑顔のために目標を掲げ取り組んでいます。
1. 人間の尊厳を重視し意思決定を支え、患者さんのニーズと希望に添えるよう支援し、選ばれる病院を目指していく。
  2. 退院支援の質の向上と標準化を進め、病院の多職種チームと地域の皆様、患者さんやご家族などと一緒に1つのチームとなり支援していく。
  3. 地域連携福祉相談室としての役割機能を更に強められるよう改善し、「知」の共有を積極的に行う。

これから本広報誌「大須」を通じて、当院から様々な情報発信をさせていただくと同時に、ご意見などもお伺いしながら、地域連携室福祉相談室一同、双方の円滑な連携の橋渡しとなるよう誠心誠意努めてまいります。



6月1日リニューアルオープン!

回復期リハビリテーション病棟を増床しました!

今まで名古屋市になかった自然治療力を引き出す新しい概念のヒーリング(癒しと安心感)ホスピタルとして再出発をしていきます。

リハビリの「きつい、辛い」というイメージを払拭し、皆さんが明るく再出発していただけるよう、患者さんと相談しながら最適なプログラムを組んでいます。現在在宅に復帰される患者さんの割合は85%を超えます。また残念ながら自宅に帰れなかった患者さんに対しても施設や療養型病院への橋渡しも丁寧に行っています。

当院は急性期病棟も併せ持ち、脳卒中再発作、肺炎、心不全など合併症の増悪、転倒による骨折などの場合は急性期に移っていただいで治療が行えます。

中区の中心に位置するため、近隣の急性期病院との連携は強固で更に高度な医療が必要な場合は容易に転院も可能です。

脳神経外科の医師を回復期リハビリテーション科部長に迎え、脳血管疾患や摂食嚥下障害に力を入れています。

当院の回復期リハビリテーション病棟の特徴

- Feature 4
- Feature 3
- Feature 2
- Feature 1



回復期リハビリテーション科  
部長 吉田 和雄

対象疾患		入院期間
1	脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント手術、脳腫瘍、脳炎、急性脳症、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、脳神経叢損傷等装具訓練を要する状態	150日
	高次脳機能障害を伴った重症脳血管障害、重度の頸髄損傷及び頭部外傷を含む多部位外傷の場合	180日
2	大腿骨、骨盤、脊髄、股関節または膝関節の骨折 または二肢以上の多発骨折	90日
3	外科手術または肺炎などの治療時の安静により廃用症候群を有した状態	90日
4	大腿骨、骨盤、脊髄、股関節または膝関節の神経・筋 または靭帯損傷後	60日
5	股関節または膝関節の置換術後	90日
6	急性心筋梗塞、狭心症発作その他急性発症した心大血管疾患又は手術後の状態	90日